

# 河北新報

6月24日(火)  
河北新報社

河北新報

平成26年(2014年)6月24日(火曜日)

(27)

特集

(第三種郵便物認可)

阪神大震災取材、執筆 故小松左京さん

## 「広い視点」「記録保存訴え」

仙台

### 作家・瀬名さんら業績語る

阪神大震災(1995年)を幅広い視点で取材し、記録保存に努めたSF作家小松左京さん(1931~2011年)の

足跡を語るトークイベントが21日、仙台市泉区の宮城県図書館であった。作家の瀬名秀明さん、東北大教授の円山重直さん、小松さんの元マネージャー乙部順子さんらゆかりの人物が、小松作品への思いを語った。

瀬名さんは東日本大震災直後、窓明かりでルポルタージュ「小松左京の大震災95」を読んだ経験を振り返りながら「とにかく多くの人と交流し、それが作品の核となっている。トータルに作品を作った」と語り、一つのことを研究する専門家から取材して総合的な著作を書いた小松氏の業績をたたえた。

円山さんは、円山翠陵のペンネームで福島第一原発事故を題材にした小説を出版した経験を語った。円山さんの専門は熱工学で「原子力は専門外だったが、そのことで見えた面がある」と話し、

乙部さんは「小松左京は、市民一人一人が記録を残すように呼び掛けたと語った。また、小松さんの母が関東大震災で被災したことや、父方の先祖が安政の大津波(1854年)に遭遇していることに言及し、自然災害の家庭での継承が小松氏の著作に影響を及ぼしていることを指摘した。

同図書館では27日まで、特別展「小松左京が遺(のこ)したものを」を開催している。



小松左京さんの業績を語る(左から)乙部さん、瀬名さん、円山さん

つながる